

中国の地域別公共投資データの解説

藤井信幸「中国における産業基盤投資の地域配分」(『経済論集』第31巻第1号),
69 ページ以下も必ず参照のこと。

中国では、通常の意味の公共投資に関する地域ごとの総体的データが公表されていない。『中国統計年鑑』(<http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2005/indexeh.htm>)にも、鉄道や通信といった公共投資関係データが含まれているものの、「公共投資」あるいは「社会資本」という統計区分はない。したがって、公共投資の総体的な規模やその地域配分を明らかにするためには、個別データを組み合わせて新たに集計する必要がある。

公共投資を含む固定資本形成に関するデータのうち、まず重要なのは『中国統計年鑑』に掲載されている「基本建設投資」であるが、そのほかに「更新改造投資」と「その他」もある。基本建設投資は拡大再生産のための投資、更新改造投資は減耗部分の回復を図る単純再生産のための投資である。ただし、更新改造投資のなかには、単なる設備の更新にとどまらず技術改良や公害処理のための投資も含まれており、しかも近年、更新改造投資はかなり多額に達している。たとえば2000年において、更新改造投資は基本建設投資の38%となっている。したがって、中国の公共投資の地域配分を検討する場合、基本建設投資とともに更新改造投資も合わせて考慮する必要がある。なお、「その他」は僅少なので無視してよいであろう。

この基本建設投資と更新改造投資のなかには、公共投資だけでなく、製造業など明らかに公共事業とは呼べない産業の投資も含まれている。したがって、公共投資に関する総体的データを作成するためには、基本建設投資と更新改造投資を再構成しなければならない。

かつてハーシュマンは、公共事業を社会的間接資本と呼んだ。これは「それなくしては第一次、第二次および第三次生産活動が働きえない基礎的用途から構成」であり、「核心を運輸と動力に限定することも可能」と定義される。同時にハーシュマンは、社会的間接資本に支えられる「第一次、第二次および第三次生産活動」を「直接的生産活動」と名付けている。

このハーシュマンの定義を念頭に、1985~2002年以降の中国の基本建設投資と更新改造投資の内訳を見ると、社会的間接資本としては、電力・ガス・水道、国土保全、交通・通信、健康・運動・社会福祉、教育・文化・放送、研究開発、公共団体があげられる。これらのうち電力・ガス・水道と交通・通信を産業基盤と見なすことができよう。ただし、電力・ガス・水道への投資額の集計が始まったのは1993年からである。また、2003年以降は公共投資関係の上記のような統計区分が変更されたので、別の方法で集計する必要がある。